

その人を よく知るからこそできる 声かけや手当てがある

松井 善典さん（野瀬町）
浅井東診療所 院長

撮影場所：草野川（野瀬町）

野瀬町にある浅井東診療所。「『おばあちゃんも診られる小児科医、お母さんの相談ができる小児科医になりたい』がスタートでした」と笑顔で語るのは、院長の松井善典さん。

医大生の頃から地域医療を志し、どこで学べば理想とする医者になれるのか探していたといいます。そして卒業後、当時日本では新しい分野だった「家庭医」の道を歩むために北海道へ。医学生の手ほとんどが大学病院勤務を選択する中、わき道を歩いている気がして不安に思ったこともありましたが、その後10年あまりで家庭医は大きく注目され、今ではその先駆者ともいえる存在です。

家庭医とは、地域の人のことをよく知る“昔ながらのまち医者”のような

存在。高度な医療ではなく、『痛くて困る』『病院にいくほどではないが心配』など、ちょっとしたことに対応する身近な医療はたくさんあります。「その人を知るからこそできる声かけや手当てがある」と松井さん。「病院と違い、診療所では長い付き合いになるので、人の営みの中に医療が入っていく。病気だけでなく、その人の人生、おかれている環境、そして本人の思いや悩みも踏まえた医療を提供できる」と家庭医のメリットを語ります。

今なぜ家庭医が求められるのか。松井さんは、その背景の一つとして地域や家庭内で人との関わりが希薄化していることを指摘します。「コミュニティの変化の中で地域医療を行うためには、関係の結び直しが必要な場合もある。

看取りの時など、患者の苦痛や不安を取るために家族の間に入っていくこともある」とその難しさをあげながらも、いかに人の暮らしの中に入って医療ができるか、そこに奥深さややりがいを感じていると目を輝かせます。

「暮らしの中での医療はごく脇役だが、ないと困るもの。地域を守るインフラとして持続していくことが大切。まだ生まれだての診療所。地域との関係を丁寧に作り上げていきたい」と意欲を燃やします。

「地域に入って多くの人に出会い、診察室でいろんな悩みを聞いてきたことはケアの資源。一冊の辞書のように役立てたい」と優しい眼差しで語る様子はまさに“昔ながらのまちのお医者さん”でした。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。
笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。
掲載を希望する人は市民広報課（☎65-6504）まで申込みください。



おじいちゃんおばあちゃん、大きいおばあちゃん近所のおばちゃん、周りのみんないつも僕達を応援してくれてありがとう。

大澤 逸平くん（平成21年1月生まれ）（右）
到将ちゃん（平成25年1月生まれ）（左）
（平方町）

服部 康太くん（平成19年8月生まれ）（右）
陽平ちゃん（平成25年11月生まれ）（左）
（湖北町馬渡）



車と時計が好きな陽平くん♡
おにいちゃんが大好きです。
いつまでも仲良くね！

まちの人口	平成27年5月1日現在	人口 121,477人	男 59,357人	女 62,120人	世帯数 44,660世帯
	平成27年4月中の異動	転入 338人	転出 390人	出生 84人	死亡 90人 婚姻 44件



植物油インキで印刷しています。再生紙を使用しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けすることを原則としていますが、市民交流センターや図書館、公民館など市の公共施設にも置いています。市のホームページでもご覧いただけます。点字広報、声の広報を作成していますので、ご希望の人は市民広報課まで。